

「おいしい水」とは、「おいしく飲める水」の事です。

水質項目	水質基準値	おいしい水の要件	摘要
蒸発残留物	500 mg/l 以下	30~200 mg/l	主にミネラルの含有量を示し、量が多いと苦味渋味等があり、適度に含まれるとコクのあるまろやかな味がする。
カルシウム、マグネシウム (硬度)	300 mg/l 以下	10~100 mg/l	ミネラルのなかで量的に多いカルシウムとマグネシウムの含有量を示し、硬度が低いとクセがないが、高いと好き嫌いがでる。 カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦味を増す。
遊離炭酸	—	3~30 mg/l	水のなかに含まれる炭酸ガスで、爽やかな味を与えるが、多く含まれると刺激が強くなる。
有機物等 (過マンガン酸カリウム消費量)	10 mg/l 以下 (注1)	3 mg/l 以下	有機物量を示し、多いと渋味をつけて消毒用塩素の消費量も多くなる影響から水の味を損なう。
臭気強度 (TON)	異常でないこと。	3 以下	水源の状況等により、様々な臭いがつくと不快感がある。
残留塩素	—	0.4 mg/l 程度以下	残留する消毒用塩素は、わずかに含まれている場合は気にならないが、濃度が高いと水にカルキ臭を与え水の味を損なう。
水温	—	最高20℃ 以下	夏季に水温が高くなるとまずく感じられる。適度に冷やして飲むとおいしく感じられる。
環境条件	❖ 気温の高いとき、カラッとしていて湿度の低い時においしいと感じる。		
	❖ 健康状態の良い時、ノドが渇いている時、運動をした後においしいと感じる。		
	❖ 水を飲む容器、周囲の雰囲気等によっても微妙においしさが左右される。		
	❖ においの感覚は朝が一番鋭敏なため、においがあれば、さらにまずく感じる。		
	❖ 体温と比較して、水温が20~25℃低い時に最もおいしいと感じる。		